

令和8年度 シラバス

愛媛県宇和島高等学校津島分校

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	学年	3	類型	ビジネスコース
教科書	第一学習社 高等学校 改訂 科学と人間生活			副教材	第一学習社 改訂 ネオバルノート 科学と人間生活				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				知	思	主	
1 学期	4						学習のねらい
		序章 科学技術の発展	① 情報伝達技術の発展	○		◎	科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解する。 身近な自然の事物・現象および日常生活から科学と人間生活とのかわりについて認識を深める。 自然と人間生活とのかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかわり方について考察する。
			② エネルギー資源の活用と交通手段の発展 ③ 医療技術の発展		◎	○	
	5	第Ⅰ章 物質の科学	第1節 材料とその利用 ① プラスチックの特徴 ② プラスチックの分類と用途（１） ③ プラスチックの分類と用途（２）	◎	○		
			中間考査	◎	◎		
			④ さまざまなプラスチック	○	◎		
			⑤ 金属と人間生活 ⑥ 金属とその製錬（１）		○	◎	
	6		⑦ 金属とその製錬（２） ⑧ 金属のさびと合金	◎	○		
			⑨ 資源の再利用（１） ⑩ 資源の再利用（２）	○		◎	
		第Ⅱ章 生命の科学	第1節 ヒトの生命現象 ① タンパク質のはたらきと構造 ② 遺伝子とDNA ③ タンパク質の合成	◎	○		
	7		期末考査	◎	◎		学習の目標
			④ 血糖濃度の調節	◎		○	自然と人間生活との関わりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解し、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
			⑤ 血糖濃度と糖尿病	◎	○		
2 学期	9		⑦ 病原体の排除（２）		◎	○	
			⑧ ヒトの視覚（１）	○	◎		
			⑨ ヒトの視覚（２）		○	◎	
	10	第Ⅲ章 熱や光の科学	第1節 熱の性質とその利用 ① 温度と熱運動 ② 熱容量と比熱（１） ③ 熱容量と比熱（２） "	◎ ◎ ◎ ○	 ◎ ◎	 ○ ◎	評価の観点 知識・技能
			④ 熱の伝わり方		○	◎	科学技術の発展の人間生活への貢献。身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身に付け、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解する。
			⑤ 仕事や電流と熱の発生		◎	○	
			⑥ エネルギーの移り変わり	◎	○		
			⑦ エネルギー資源の有効活用	○		◎	
	12	第Ⅳ章 地球や宇宙の科学	第1節 自然景観と自然災害 ① 日本列島のなりたち ② 火山活動と地表の変化 ③ 火山災害と防災 ④ 地震活動と地表の変化 ⑤ 地震災害と防災	◎ ◎ ◎ ◎	 ◎ ◎ ◎	 ○ ○ ○	思考・判断・表現
3 学期	1						主体的に学習に取り組む態度
			⑥ 水のはたらきと地表の変化（１）	○		◎	身近な事物・現象に関心や探究心をもち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身に付ける。
			⑦ 水のはたらきと地表の変化（２） ⑧ 気象災害と防災	○	◎		
			学年末考査	◎	◎		
			家庭学習				
	2		"				
			"				
			"				
			"				
	3						

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【身の回りの事物・現象に興味を持とう！】

- 科学と人間生活は、中学校の1分野(物理や化学)に関係する事柄と2分野(生物や地学)に関係する事柄を広く学ぶ科目です。理解するためには、地道な取組が必要です。
- 私たちの身の回りにある物質や生物、身近におこる現象、科学技術などについて、広く興味・関心を持つことが大切です。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
- 前回の授業を振り返る時間を取ります。復習をする習慣をつけていきましょう。
- プリントをきちんと整理しましょう。
- 定期的の実験を行います。積極的に取り組み、学習の理解を深めましょう。

【家庭学習】

- 学習の基本は、教科書と問題集です。試験の時に困らないよう、整理を、日頃から心掛けましょう。
- いろいろなことに興味を持とう！
日常生活の中にこの科目で学習する「科学」は潜んでいます。いろいろなことに興味を持って、まずは自分で調べてみる姿勢を養ってください。

【定期考査】

- 語句の意味、表記などを正確に覚えることが基本になります。
- 初めての課題も、知識の応用で解くことができます。あきらめず粘り強く取り組む姿勢をつくりましょう。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的な学習態度の3点の観点から から評価します。	
評価の基準	1 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に③の観点から評価します。)
	2 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に③の観点から評価します。)
	3 学 期	学年末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均